

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 49人 | 算数 | 51人 | 理科 | 52人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第5学年 | 国語 | 59人 | 算数 | 59人 | 理科 | 59人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

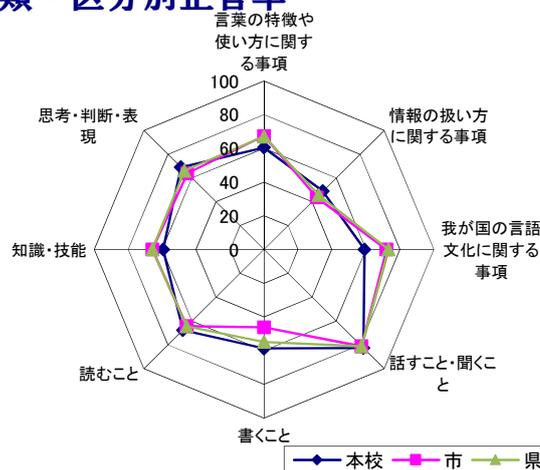
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 60.5 | 67.4 | 67.1 |
|     | 情報の扱いに関する事項    | 49.0 | 43.8 | 45.7 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項 | 59.2 | 72.1 | 73.4 |
|     | 話すこと・聞くこと      | 82.7 | 81.2 | 81.2 |
|     | 書くこと           | 58.7 | 46.2 | 54.9 |
|     | 読むこと           | 67.6 | 64.3 | 64.5 |
| 観点  | 知識・技能          | 59.4 | 65.7 | 65.7 |
|     | 思考・判断・表現       | 69.1 | 64.0 | 66.3 |



## ★指導の工夫と改善

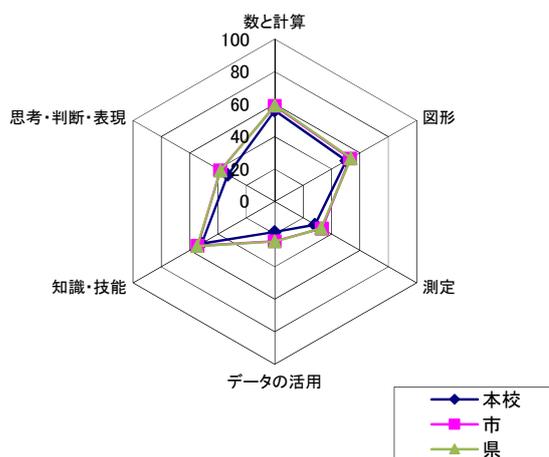
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況   | 今後の指導の重点  |
|----------------|--|---|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | ○「遊び」と「都合」という漢字を読む問題の正答率は、それぞれ98.0%、63.3%であり、市の平均より高い。<br>○ローマ字とその読み方の組み合わせとして適するものを選ぶ問題では、正答率が59.2%であり、市より高い。<br>●漢字を書く問題の正答率は、それぞれ34.7%、40.8%、42.9%であり、市よりかなり低い。 | ・漢字テスト等を用いて理解が不十分な漢字を把握し、繰り返し練習することで定着を図る。また、漢字を使った熟語作りや、短文作成といった学習活動を通して、漢字への理解を深めていく。<br>・日常的にローマ字に触れる機会を設けるために、一人一台端末を活用し、積極的に文章を書く活動を取り入れる。 |
| 情報の扱いに関する事項    | ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が49.0%であり、市の平均よりかなり高い。  | ・引き続き、あらゆる教科において国語辞典を活用する機会を設ける。  |
| 我が国の言語文化に関する事項 | ●漢字のへんやつくりを理解する問題では、正答率が59.2%であり、市の平均よりかなり低い。  | ・漢字の学習を行う際や、新出漢字を扱う際には、へんやつくりにも着目させることを継続して取り組み、漢字の理解が深まるように指導していく。   |
| 話すこと・聞くこと      | ○司会者の話し方の工夫を捉える問題では、正答率が81.6%であり、市の平均より高い。<br>●話し手が伝えたいことの内容を捉える問題では、正答率が85.7%であり、市の平均より低い。  | ・自分と相手の考えや意見を比べたり、話の要点をまとめたりする活動を取り入れていき、話すことや聞くことの力をつけていく。   |
| 書くこと           | ○指定された長さで文章を書くこと、自分の考えを明確にして文章を書くこと、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く問題では、正答率がそれぞれ67.4%、67.4%、61.2%であり、市の平均よりかなり高い。   | ・日頃の授業や家庭学習の中で、日記や短作文などを取り入れて、文を書くことについて抵抗がなくなるようにする。<br>・段落や鍵かっこなどの使い方等、原稿用紙の書き方を作文を書くときに再確認し、しっかりと使えるようにする。                                   |
| 読むこと           | ○叙述を基に段落の内容を捉える問題では、正答率が67.4%であり、市の平均よりかなり高い。<br>○叙述を基に文章の内容を捉える問題では、正答率が77.6%であり、市の平均よりかなり高い。<br>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、正答率が5.1%であり、市の平均よりかなり低い。 | ・文章を読む際に中心となる語や文に気を付けさせ、読解力を向上させる。<br>・物語や説明文の学習の中で段落ごとに要点を読み取る活動を行い、文章の内容を捉える練習を積んでいくようにする。  |

# 宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 56.1 | 58.9 | 59.2 |
|     | 図形       | 50.3 | 53.0 | 53.7 |
|     | 測定       | 28.4 | 33.1 | 32.6 |
|     | データの活用   | 18.6 | 24.4 | 24.6 |
| 観点  | 知識・技能    | 51.6 | 54.3 | 54.7 |
|     | 思考・判断・表現 | 33.1 | 38.5 | 38.3 |



## ★指導の工夫と改善

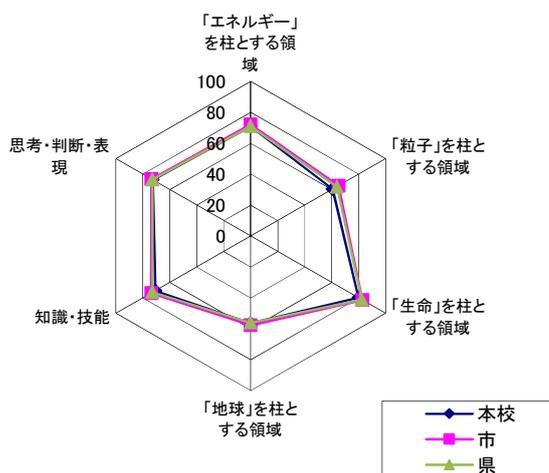
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況  | 今後の指導の重点  |
|--------|---|---|
| 数と計算   | <p>○数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、正答率が64.7%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○3けた+3けた=4けたの計算では、正答率が92.2%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>●大きな数の表し方に関する問題では、正答率が33.3%であり、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●3けた-3けた=3けたの計算をする問題では、正答率が60.8%であり、市の平均よりかなり低い。</p> | <p>・今後も数や計算についての基礎的・基本的な活動を充実させる等、高学年での学習につなげられるような指導を工夫する。</p> <p>・数の相対的な大きさを求める学習では、位取り表や数直線を活用した指導を行い、数の仕組みについての理解を深めていく。</p> <p>・繰り下がりのある減法の仕方を理解し、正確な計算ができるよう計算練習を行う。特に波及的繰り下がりのある減法については、手順通りに表すことの大切さについて繰り返し指導をし、理解を図れるようにする。</p> |
| 図形     | <p>○二等辺三角形になる図を選ぶ問題では、正答率が74.5%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>●円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、正答率が29.4%であり、市の平均よりかなり低い。</p>  | <p>・円や三角形の性質を知る学習では、視聴覚教材の活用、求め方の説明をする活動などを行うことにより確実に理解できるようにする。</p>  |
| 測定     | <p>○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、正答率が25.5%であり、市の平均と同程度である。</p> <p>●地図から2つの道のりを読み取り、差を答える問題では、正答率が33.3%であり、市の平均よりかなり低い。</p>   | <p>・問題文をよく読み、解答への手掛かりになっている箇所を見つけ出せるよう繰り返し指導をすることで、文章問題への理解を図れるようにする。</p>   |
| データの活用 | <p>○棒グラフを読み取り、落とし物の数が一番増えた種類を答える問題では、正答率が13.7%であり、市の平均と同程度である。</p> <p>●目盛りの数が異なる2つの棒グラフで、棒の長さで数を比べられないわけを説明する問題では、正答率が11.8%であり、市の平均よりかなり低い。</p>   | <p>・棒グラフの学習では、1目盛りの大きさに着目して読み取らせるとともに、社会や理科で行うグラフの読み方や書き方の学習と結び付ける等、指導を工夫するようにする。</p>   |
|        |   |   |

# 宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 71.0 | 72.1 | 71.0 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 60.6 | 65.2 | 63.9 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 79.9 | 82.8 | 82.4 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 56.4 | 57.7 | 56.2 |
| 観点  | 知識・技能          | 70.7 | 73.8 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現       | 72.6 | 73.7 | 72.8 |



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況   | 今後の指導の改善  |
|----------------|--|---|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <p>○実験の結果から風が強くなるとものを動かすはたらきが大きくなることを答える問題では、正答率が67.3%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○車を前に動かすために近づける磁石の極を答える問題では、正答率が75.0%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>●実験の結果から音の大小とふるえ方の違いについて答える問題では、正答率が65.4%であり、市の平均よりかなり低い。</p> | <p>・音の伝わり方の学習では、実験の結果から音の大小とふるえ方のちがいや音の伝わる仕組みについて推測したり、練習問題に取り組む時間を設定したりすることにより、理解を深めるようにする。</p>  |
| 「粒子」を柱とする領域    | <p>○植物の体のつくりについての問題では、正答率が98.1%であり、市の平均より高い。</p> <p>○昆虫の体のつくりについての問題では、正答率が88.5%であり、市の平均と同程度である。</p>   | <p>・一人一人が体感できる実験を取り入れることにより、実験器具の使い方について正しい知識を身に付けさせる。また実験を行う際、「この実験は、どのような目的で行うのか」ということを正しく認識させるようにする。</p>                                   |
| 「生命」を柱とする領域    | <p>○植物の体のつくりの共通点を選ぶ問題では、正答率が98.1%であり、市の平均より高い。</p> <p>●2種類の植物の記録カードを見比べて、差異点や共通点を見い出す問題では、正答率が71.2%であり、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●虫めがねの正しい使い方を選ぶ問題では、正答率が34.6%であり、市の平均よりかなり低い。</p>                             | <p>・植物の育ち方の学習では、数種類の草花を成長過程ごとに記録し、グループや学級全体で観察結果を共有することで、比較検討する力を育てていく。</p> <p>・生き物や植物を観察する学習では、虫めがねを使った観察を積み重ねていくことで、正しく使用することができるようにする。</p> |
| 「地球」を柱とする領域    | <p>○影のできる向きと影踏みで逃げる方向について選ぶ問題では、正答率が71.2%であり、市と同程度である。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題では、正答率が42.3%であり、市の平均よりかなり低い。</p>  | <p>・太陽と影の学習では、方位磁針の使い方を身に付けるための時間を十分に取ることによって、太陽の位置の調べ方について児童一人一人が正しく理解できるようにする。</p>  |

## 宇都宮市立清原中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」の肯定的回答割合は74.6%で、市の平均よりかなり高い。学校内で、家庭学習の取り組み方について共通理解を図って実践している成果が表れている。

○「授業を集中して受けている」の肯定的回答割合は98.2%であり、市の平均よりかなり高い。「学校のきまりを守っている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答割合は100%である。学校や学習のきまりを守って生活し、相手を思いやる心が育ち、友達と良好な人間関係を築くことができている。学校全体で、学習や生活のきまりを共通理解を図って指導し、認め・励ます教育や思いやりの心を育成する取り組みをしてきた成果が表れている。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定的回答割合は70.9%であり、市の平均より高い。一人一台端末や学校図書館を活用して、総合や各教科で自分の課題に関する情報を得るため、調べ学習を取り入れてきた成果だと考えられる。

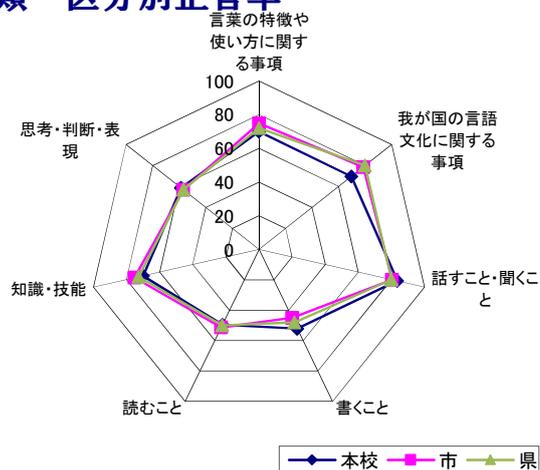
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答割合は、80.0%であり、市の平均よりかなり高い。国語や道徳の授業だけでなく、各教科においても考えを記述する時間を確保したり、学校行事等の振り返りを書いたりすることで、自分の考えを文章にして表現する力を伸ばしていきたい。

●「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答割合は61.8%であり、市の平均よりかなり低い。学習したことを日常生活と関連付けられるように授業の工夫を図っていきたい。

# 宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 70.0 | 74.8 | 72.0 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 69.5 | 78.6 | 79.9 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 83.5 | 80.4 | 80.0 |
|     | 書くこと            | 52.1 | 45.1 | 48.0 |
|     | 読むこと            | 49.6 | 51.3 | 50.0 |
| 観点  | 知識・技能           | 70.0 | 75.2 | 72.8 |
|     | 思考・判断・表現        | 58.7 | 57.0 | 57.0 |



## ★指導の工夫と改善

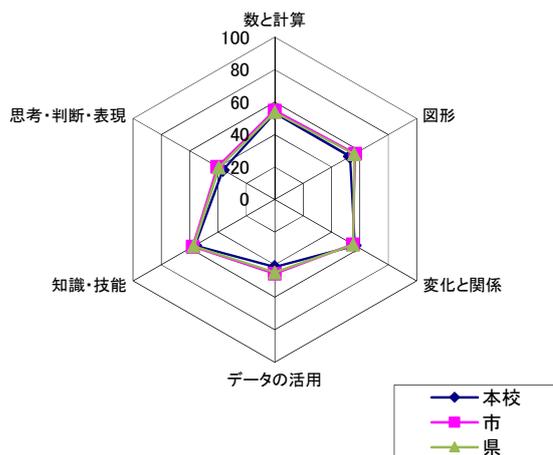
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分           | 本年度の状況   | 今後の指導の重点   |
|-----------------|--|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | ○文を読み、様子を表す語として適する語を選ぶ問題では、正答率が91.5%であり、市の平均と同程度である。<br>●漢字を読んだり書いたりする問題において、6問中4問が市の平均より低い正答率となった。<br>●文章における修飾と被修飾の関係を捉える問題では、正答率が0%であり、市の平均よりかなり低い。 | ・朝のモジュール学習の時間等を活用し、習得が不十分な漢字に関しては繰り返し指導を行い、定着を図る。また、漢字を使って熟語作りを行ったり、短文を作成したりする学習活動を多く授業の中で取り入れていく。<br>・文章を書く活動の際に、修飾語と被修飾語の関係を意識させながら、それぞれの役割を理解させていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項    |  |  |
| 我が国の言語文化に関する事項  | ●慣用句の正しい使い方を選択する問題では、正答率が69.5%であり、市の平均よりかなり低い。   | ・様々な慣用句に触れられるようにしたり、短文の中で活用したりできるよう指導していく。   |
| 話すこと・聞くこと       | ○話合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題では、正答率が91.5%であり、市の平均よりかなり高い。   | ・相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるよう、授業中など話合いの機会を多く設け、継続的に指導していく。   |
| 書くこと            | ○「書くこと」の領域に係る問題では、対象問題4つすべてが市の平均より高く、その内、3つが市の平均よりかなり高い。<br>●「書くこと」の領域に係る4問中3問における正答率は40%台であり、且つ無回答率が10%を超えている。  | ・段落の使い方などの文法や、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことを意識して学習に取り組ませる。<br>・授業の振り返りや作文の宿題等で、児童が意識して文章を書く機会を多く設けるようにしていく。  |
| 読むこと            | ○登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像することができるかを問う問題では、正答率が42.4%であり、市の平均よりかなり高い。<br>●叙述を基に段落相互の関係を捉えることができるかどうかを問う問題では、正答率が32.2%であり、市の平均よりかなり低い。                      | ・説明文において、段落ごとに要点を的確に読み取る活動を継続的に行う。<br>・文章を読む際に、中心となる語や文を意識させ、読解力を向上させる。  |

# 宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算     | 53.2 | 54.9 | 53.7 |
|     | 図形       | 53.1 | 56.6 | 56.1 |
|     | 変化と関係    | 56.4 | 55.1 | 55.2 |
|     | データの活用   | 41.4 | 45.5 | 44.8 |
| 観点  | 知識・技能    | 56.3 | 57.8 | 57.2 |
|     | 思考・判断・表現 | 36.6 | 40.6 | 39.5 |



## ★指導の工夫と改善

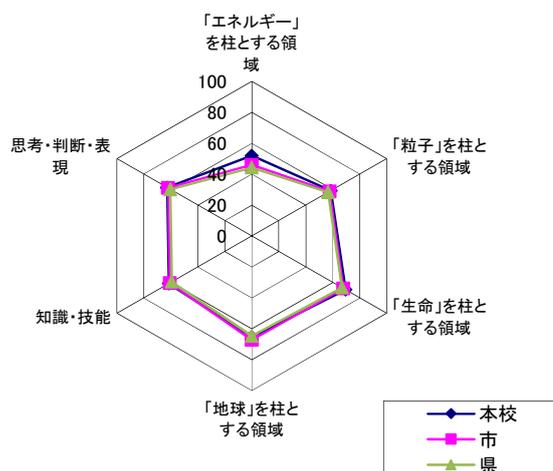
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況   | 今後の指導の重点   |
|--------|--|--|
| 数と計算   | <p>○数直線上の目もりが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、正答率が61.0%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○複数の数直線上に表した分数について同じ大きさの部数の組み合わせを選ぶ問題では、正答率が86.4%であり、市の平均より高い。</p> <p>●大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、正答率が69.5%であり、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●式の意味を言葉で表したものとして、正しいものを選ぶ問題では、正答率が55.9%であり、市の平均よりかなり低い。</p> | <p>・分数の学習では、分数の意味や表し方についての理解を深められるように、数直線や面積図を用いて、視覚的に大きさを捉えさせていく。</p> <p>・具体的な場面や解決過程を式に表現したり、逆に、式を通して場面の意味を読み取ったり、式を「算数の言葉」として用いられるように、スモールステップで学習を進め、無理なく確実に定着を図っていく。</p> |
| 図形     | <p>○直方体の面に垂直な辺をすべて答える問題では、正答率が62.7%であり、市の平均と同程度である。</p> <p>○平行四辺形の作図をする問題では、正答率が45.8%であり、市の平均より高い。</p> <p>●面積の求め方について、示された求め方をもとに、正しい式を選ぶ問題では、正答率が55.9%であり、市の平均よりかなり低い。</p>  | <p>・図形に関する問題に数多く取り組ませ、いろいろな面積の求め方の習熟を図る。</p> <p>・平面図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする活動を通して、実感を伴った理解ができるようにする。</p> <p>・三角定規等を意識的に使用する場面を設けることにより、角度の理解を深めるようにする。</p>             |
| 変化と関係  | <p>○表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題では、正答率が89.8%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○割合を使った比べ方について説明する問題では、正答率が35.6%であり、市の平均より高い。</p> <p>●30円を1とみたとき、90円の大きさを答える問題では、正答率が61.0%であり、市の平均よりかなり低い。</p>  | <p>・日頃からいろいろな視点を取り入れた問題に取り組ませることで、数量の関係を式に表すことができるようにする。</p> <p>・2つの数量の関係についての問題に数多く触れさせ、その関係を表や式に表しながら、その変化の様子や特徴を粘り強く考えさせる。自分の考えを自分の言葉で表していくことに時間をかけ、丁寧に取り組ませる。</p>        |
| データの活用 | <p>○グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ問題では、正答率が47.5%であり、市の平均と同程度である。</p> <p>○表の数が何の数を表しているかを答える問題では、正答率が69.5%であり、市の平均より高い。</p> <p>●折れ線グラフを読み取り、気温差が最も大きい月を答える問題では、正答率が44.1%であり、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明することができる問題では、正答率が5.1%であり、市の平均より低い。</p>          | <p>・児童にとって身近で分かりやすいデータをたくさん活用し、まずは折れ線グラフや表の表し方の理解・習熟を図り、基本を徹底させる。</p> <p>・グラフや表から読み取れることを自分なりによく考え、根拠を明確にして自分の言葉で説明する学習活動を繰り返し実践していく。</p>                                    |
|        |  |  |

# 宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 52.0 | 46.0 | 44.3 |
|     | 「粒子」を柱とする領域    | 58.5 | 57.7 | 56.6 |
|     | 「生命」を柱とする領域    | 69.5 | 67.8 | 66.9 |
|     | 「地球」を柱とする領域    | 65.4 | 67.2 | 64.6 |
| 観点  | 知識・技能          | 61.5 | 60.8 | 59.2 |
|     | 思考・判断・表現       | 62.7 | 62.1 | 60.4 |



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況   | 今後の指導の改善   |
|----------------|--|--|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | <p>○乾電池のつなぎ方の名称を答える設問では、正答率が74.6%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○簡易検流計の針のふれ方から分かることを答える設問では、正答率が37.3%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>●電流が同じ大きさの回路を選ぶ設問では、正答率が44.1%であり、市の平均より低い。</p>   | <p>・実験の目的を明確にし、実験の時間を十分確保した上で授業に臨めるようにする。</p> <p>・今後も既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立てさせ、問題解決の力を育てていく。</p>                         |
| 「粒子」を柱とする領域    | <p>○エアコンで部屋全体の空気をあたためる方法を答える設問では、正答率が79.7%で市の平均より高い。</p> <p>●水でつぼうから水が出る理由を選ぶ設問では、正答率が54.2%であり、市の平均よりかなり低い。</p> <p>●空気と金属をあたためたときの体積の変化の大きさを比べて考える設問では、正答率が69.5%で、市の平均より低い。</p>  | <p>・一人一人が体感できる実験を取り入れることにより、正しい知識を身に付けさせるようにする。</p> <p>・日常生活の中で、実験の仕組みや結果を生かし、答えを導き出すことができるような機会を確保していく。</p>                 |
| 「生命」を柱とする領域    | <p>○骨と関節の名称を答える問題では、正答率が91.5%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○季節ごとの動物の活動に関する問題では、正答率が79.7%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>○ヒョウタンの伸びを正しく表したグラフを選ぶ問題では、正答率が83.1%であり、市の平均より高い。</p> <p>●イチチョウが季節によりどのように変化するかを選択する問題では、正答率が32.2%であり、市の平均よりかなり低い。</p> | <p>・植物の観察において、種類により成長の違いが見取れるように記録の方法を工夫するとともに、児童の興味関心によって観察に偏りが出ないように助言する。また、観察記録をクラス全体で見直す機会を設け、共通点と差異点について着目する活動を設ける。</p> |
| 「地球」を柱とする領域    | <p>○排水口の位置が低くなっている理由を選ぶ問題では、正答率が91.5%であり、市の平均より高い。</p> <p>○水蒸気が冷やされることで水になることを答える問題では、正答率が59.3%であり、市の平均よりかなり高い。</p> <p>●気温の測り方として正しいものを選ぶ問題では、正答率が44.1%であり、市の平均よりかなり低い。</p>  | <p>・実験の結果から分かったことを、自分の言葉でまとめるだけでなく、クラス全体で共有して、理科的な言葉を使ったまとめができるような授業を展開する。</p> <p>・実験から得られた結果を、日常生活に広げて考えられるように指導していく。</p>   |

## 宇都宮市立清原中央小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○各教科が「しょう来的のために大切だと思いますか」の肯定的回答割合は、国語(市96.1%)、社会(市95.5%)、算数(市97.1%)において100%となった。理科でも肯定的回答割合は94.9%で、市の平均(86.2%)よりかなり高い。各教科において、学習と生活とのかかわりを意識させ、意欲を高めるための単元の導入の取組の成果が表れていると考えられる。今後も意欲を高めるための工夫をして支援をしていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答割合は88.2%で、市の平均より高い。帰りの会等で児童が互いに称賛し合う活動を促進させ、さらに自己肯定感を高めさせたい。さらに、よさを発揮する機会を設け、児童の有用感の向上も図りたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答割合は、67.8%であり、市の平均よりかなり低い。また、「家で学校の授業の予習・復習をしている」の肯定的回答割合は、42.4%、50.8%であり、市の平均よりかなり低い。宿題については100%の児童が家でしていると回答しているが、自主学习になると、取組が十分でないことが伺える。自主学习ノートに貼付させている取組む内容や目標時間について定期的に確認や声掛けを行い、予習と復習の効果について周知し、より効果的な取組ができるよう促したい。

## 宇都宮市立清原中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                 | 取組の具体的な内容   | 取組に関わる調査結果  |
|------------------------|---|---|
| 自分の考えをもち、主体的に取り組む児童の育成 | 自分の考えをきちんともてるよう、書く活動や問い返しなどを意図的に取り入れると共に、ペアやグループ学習を積極的に行い、主体的・協働的に考えを深め合えるための授業づくりに努めている。自分から進んで話合いに参加できるようになるための手段の一つとしては、一人一台端末の活用を意識した取組みを行っている。 | 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」という設問の肯定的回答割合が4学年は80%で県の平均より15.5ポイント上回り、5学年は56.1%で7.5ポイント下回った。学ぶ意欲に関する設問7項目のうち、県の平均を上回った項目の数は、4学年は3項目で、5学年は4項目だった。その中で「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」という設問の肯定的回答割合は4学年は70.9%で県の平均より3.3ポイント上回り、5学年は61.0%で、7ポイント下回った。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題  | 重点的な取組                    | 取組の具体的な内容   |
|---|---------------------------|---|
| 学ぶことについて肯定的に捉えている児童が多いが、自ら課題を解決しようとしたり、学びを広げたり深めたりしようとする児童が少ない。 | 生きて働く「知識・技能」の習得を目指した指導の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な学習内容が確実に習得できるよう、既習事項を扱った内容を繰り返し行うようにする。</li> <li>・児童の学習意欲に応えられるよう、発展的な学習内容を取り入れる。</li> <li>・自主学习ノートで優れた内容のものを紹介する。</li> <li>・家庭学習の強調週間を設け、保護者が確認できる機会を設ける。</li> </ul> |